



「友よ 我等は」

「学年通信」は、生徒の皆さんが読み終わった後、必ず保護者の方に渡してください

「思い出を胸に、また前を向いて」

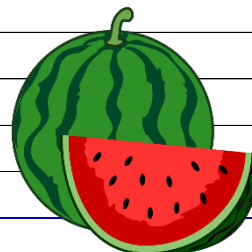
学年主任 角田恵一

学園祭が終わりました。初めての蒼龍祭、皆さん楽しめましたか？準備期間中、生徒の皆さんは早朝から準備に取り掛かり、土日も登校して、熱心に作業していましたね。1年生は初めての蒼龍祭ということで、慣れない中で、時には意見の食い違いなどもあったことでしょう。思うように作業が進まず、イライラが募ったり…。でも、学園祭って、当日だけじゃなく、構想・準備を含め、上手くいったことも上手くいかなかったことも、とにかく全部合わせて、「学園祭」なんだと思います。さらに言えば、高校を卒業した後も、何かの拍子に振り返って、「よくあんなことやったなあ」とか「本当に大変だったけど、その分楽しかったなあ」と苦笑しながら思い出すこともまた、学園祭の楽しみの一部なのかもしれません（皆さんにとっては、それはまだまだ先の楽しみですけれどね）。私も、本校に赴任して初めての蒼龍祭を大いに楽しみました。本校では、先生方も学園祭に積極的に協力している様子を見て、生徒と一緒に頑張る雰囲気がとてもいいなあと感じました。1年生の皆さんは今年の経験を生かし、来年はさらにグレードアップした蒼龍祭を作り上げてほしいと思います。

さて、6月ももう後半です。下の行事予定を見ると、夏休みまであとひと月ほどになりますね。時間はどんどん過ぎていきますが、焦らず、でも先の見通しをもって、1日1日を大切に過ごしましょう。あれもやりたい、これもやらなきゃと忙しい毎日だと思いますが、時間だけは待ってくれませんので、優先順位をつけて、今やるべきことは何かを考えながら行動しましょう！

7月行事予定

日	曜	行 事	日	曜	行 事
1	月	三者懇談 午後授業カット(全学年) フードドライブ①(~7/12) 生徒会役員選挙告示	17	水	
2	火	午後授業カット(全学年)	18	木	前期中間試験 学年集会
3	水	午後授業カット(全学年) ▲カセット	19	金	一括徴収金外集金(1年 7:45~ 生徒昇降口) 前期中間試験 学年集会 納め式 全校集会 大掃除(安全点検) LHR
4	木	㊦カット 5短	20	土	WEB学校説明会公開
5	金	㊧カット 5短 教育相談	21	日	
6	土		22	月	登校学習会(1・2年) 一括徴収金集金外予備日(購買対応)
7	日		23	火	理数コース宿泊学習会(1・2年)
8	月	☺	24	水	
9	火	▲カセット	25	木	夏季休業
10	水		26	金	
11	木		27	土	
12	金		28	日	
13	土	土曜講座(全学年)	29	月	
14	日		30	火	
15	月	海の日	31	水	
16	火	☺			



【1学年リレー通信】

『わかりやすい』ことは『良いこと』なのか

3組担任 井上 裕紀

授業の感想を書いてもらう欄に、「授業がわかりやすいです」と書いてくれる人がいます。ありがたいことだと思いつつ、大変失礼で申し訳ないのですが、ひねくれている私は、「必ずしもわかりやすさを目指して授業をしているわけではないんだけど、私の授業これで良いのかなあ…」などとも思っています。

わかりやすい授業を目指していないなんてけしからん、と思われるかもしれませんが、現実の社会や歴史上で起きた出来事が「わかりやすい」ことなどほとんどなく、むしろその実相に迫ろうとすればするほど、なにが正しいのか「わかりにくい」「わからない」ことばかりです。にもかかわらず複雑な事象を単純化して、「わかりやすい」説明に落とし込んでしまうことは、なにか欺瞞のような気がするのです。

抽象的な話をしてしまいました。たとえば、狩猟採集の縄文時代から、稲作が導入された弥生時代へと「進歩」し、人々の暮らしも豊かになっていったというイメージをもっている人は多いと思います。そして弥生時代・弥生文化といえば、弥生土器・稲作・金属器などがセットで登場するものだと思っている人がほとんどではないでしょうか。

しかしながら、そのような要素が同時にすべて揃っていたのは西日本（北陸・東海以西）に限られています。青森県の砂沢遺跡や垂柳遺跡というところでは、紀元前4～3世紀の水田跡が見つっていますが、収穫は石庖丁ではなく縄文時代以来の石器で行われていますし、周辺で出土する土器には「縄文」がついていたり、土偶など縄文時代以来の祭具が出土したりしています。また、一度稲作が伝われば、もう狩猟採集の段階には「戻らない」ものだと思っているかもしれませんが、青森では300年ほど稲作が続けられたのち放棄されました。その理由を解明するのは簡単ではないのですが、生業を稲作に特化し、平野部への集住が進むことは、自然災害に対する耐性を大きく低下させることに繋がるため、稲作にこだわらないことは、自然のなかで柔軟に生き抜いていくということでもあります。

このように、ある時期に列島全体で弥生文化的なものが一斉に導入されるのではなく、実際には時期ごと、地域ごとに多様な文化や社会が展開し、そのなかで新しいものを取捨選択して導入していたのであり、稲作も継続するメリットよりもデメリットの方が大きければ放棄されます。

教科書はすべての時期・地域を網羅するわけにはいきませんので、便宜的に特定の地域の状況を取り上げ、弥生時代・弥生文化の代表例として説明しますし、それに乗っかって「狩猟採集の縄文から稲作の弥生への進歩」という構図で物事を捉えた方が「わかりやすい」のですが、そのような単純な図式を覚えることが、みなさんの社会を視る目を豊かに、鋭くすることにつながるとは思えません。むしろ今学んでいることや見えていることが全てではないのではないか、教科書や教師の説明は誰の、どの視点からなされているものなのか、という視点から、批判的に（否定的に、ではない）考え続けることを大切にしてください。それが、「わかったから楽しい」という「勉強」の段階から、「わかったようでわからないんだけど、でも考え続けることは面白いよね、意味がありそうだね」という「学問」の段階へステップアップしていくということなのではないか、と思います。



砂沢遺跡（青森県弘前市，筆者撮影）

<参考文献>

藤尾慎一郎「弥生文化の輪郭 灌漑式水田稲作は弥生文化の指標なのか」『国立歴史民俗博物館研究報告』178, 2013年

高瀬克範「稲作農耕の需要と農耕文化の形成」藤沢敦編『倭国の形成と東北』吉川弘文館, 2015年